

令和4年度 福岡市立 [城南小] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
<p>○めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気に満ちた学校 ・地域、保護者に信頼ある学校 <p>○めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良く、助け合う子ども ・よく考え、学び合う子ども ・たくましい心と体をもった子ども <p>○めざす教員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間性豊かで、協調性を備え、「チーム城南」を支える教員 ・教育専門職として指導力を身につけ、教育愛に燃える教員 		<p>確かな学力の定着と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ研究の推進や日々の授業改善による生き生きと学ぶ授業づくり ・学力向上部を中心とした算数科における学力向上の取組の推進 ・ICTを活用した新しい学習スタイルの確立 	
		<p>豊かな人間性・社会性の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの個性・特性理解をもとにした支援体制の確立 ・児童会を中心とした「あいさつ運動」など、自主的な取組の推進 ・不登校傾向児童の改善・復帰に向けたSCやSSW等と連携した組織的な支援 	
		<p>信頼される学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への積極的な情報発信 ・家庭訪問等を通じた保護者との日常的な連携とPTAや地域との行事の融合 ・保護者アンケート実施によるニーズの把握と積極的な取組の推進 	
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
<p>確かな学力の定着と向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」を明確に位置付け、一人ひとりの子どもが見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを行う。 ・自分の考えをもたせるための書く活動、考えを深めるための対話的な学習活動を効果的に位置づける。 ・「学力調査」や学習定着度調査の結果分析による、学年が主体となった算数科における学力向上の取組を推進する。 ・ICT(学年教職員のGoogleクラスルーム等)を活用して教材や資料を学年で共有し、学習の質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」の位置付けについては、約90%の教職員が「よくできた」または「できた」と回答している。テーマ研究との関連において、問いの連続を促す面からまとめや振り返りの工夫を行ってきた。 ・生活科や社会科、生活単元学習を中心として、いろいろな教科等で書く活動やペア・グループ交流などの対話的な学習活動に力を入れて取り組んできた。(保護者アンケート・肯定的意見85%) ・「授業改善推進プラン」をもとに各学年で取り組んできたが、専科教員配置減少や講師欠員により徹底できない面があった。 ・ICT推進リーダー等の働きかけや研修により、ICTを活用した教材や資料の学年共有や学習の質の向上が進んできた。 	
<p>豊かな人間性・社会性を身に付けさせる指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの個性や特性を理解することにより、学年や校務分掌組織を活用した組織的な支援を行う。 ・特別活動部と生徒指導部の連携により、児童会を中心とした「あいさつ運動」などの取組を計画的に推進する。 ・不登校傾向児童の改善・復帰に向けてSCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。 <p>0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの個性や特性を十分理解して支援することを最重点において取り組んできた。学年会はもとより、校内支援委員会や児童終礼で共通理解を図り、関係諸機関とも連携しながら子どもたちの支援を行ってきた。(同・肯定的意見90%) ・年間を通して気持ちのよい挨拶の指導をするとともに、計画委員などの子どもたちが自主的に朝の校門に立ち挨拶をすることで全校に挨拶の輪を広げてきた。(同・肯定的意見81%) ・担任、養護教諭、管理職が連携しながら、児童の欠席や遅刻の状況を毎日把握し、個に応じた支援を行ってきた。SC(SSW)や関係諸機関とも日常的につながりを持ち、組織的な支援を行ってきた。 	
<p>信頼される学校づくりの推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや各種たよりを活用することにより、学校としての考えや子どもの状況等を積極的に発信する。 ・家庭訪問や面談、電話連絡等をもとに保護者と日常的な連携を行うとともに、PTAや地域との行事の融合を図る。 ・保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の推進に生かしていく。 <p>0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやメール配信、各種たよりを活用することにより、学校からの情報を日常的に発信している。また、来年度からの2学期制移行に伴い、保護者や地域の方々への説明に力を入れてきた。(同・肯定的意見93%) ・案件や連絡内容に応じて、連絡帳、電話、学校面談、家庭訪問などの手段を選択し、保護者と日常的につながるよう努めてきた。(同・肯定的意見88%) PTA行事や地域行事も可能な範囲で開催されるようになり、児童や教職員の積極的な参加が見られるようになってきた。 ・今年度は保護者による学校評価アンケートの内容項目を変更し、より学校評価に生かすことができるようにした。 	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい挨拶については、先生方の指導をもとに子どもたちの自主的な挨拶の姿が見られるので、もう少し評価してもよいのではないかと。挨拶を通して自分は社会から生かされていることを感じ取ることができる。地域をあげて笑顔で根気強く挨拶の輪を広げていきましょう。挨拶運動をしているの方々への感謝も忘れないようにしたい。 ・学校評価についても、アンケートの内容項目を変更して学校教育活動に活かすようにしているので、評価してよい。 ・教員免許状所有者が教員にならないことなど、教員の人材確保の面で課題は多い。教職員の質の向上と働き方改革を進めていくためにも、保護者の支援や教員を育てようとする社会全体の意識を高めていくことが必要である。 ・若手の先生方とPTA、地域との日常的な交流が大切である。スポーツをしたり、飲食を共にしたりする場が欲しい。 ・コロナ禍後をどのようにしていくのか、工夫が必要である。 			